

学会賞の選考結果について

証券経済学会選考委員会

1 応募状況

応募点数 2 点（著書 2 点）

2 選考結果

証券経済学会賞（図書部門）

- ・平山賢一『戦前・戦時期の金融市場』日本経済新聞出版、2019 年刊
- ・阿萬弘行『株価の情報反映メカニズム』中央経済社、2018 年刊

3 講評

選考に当たっては、以下の基準で審査を行った。

- ・専門論文としての要件を満たしているか
- ・研究内容にオリジナリティがあるか
- ・著者の問題意識や分析視点が明確で、論文としての完成度が高いか
- ・先行研究を十分に消化しているか

平山氏の著作は昭和初期の国債・株式市場を対象として実証研究を実施したものである。分析は、金融・証券史研究の知見に基づいた視点を基礎に行われ、ファイナンス研究の知見をふまえながら多様な切り口で検討が加えられている。昭和初期国債パフォーマンスインデックスに基づく基礎的な分析に続いて昭和初期株式パフォーマンスインデックスに基づいた分析が実施され、日米イールドスプレッド比較分析等が実施されている。特に、手間のかかる権利落ち修正等を実施している点は、著者の実務経験と学術研究を結び付けようとする問題意識が現れたもので、オリジナリティが高いと思われる。ファイナンス研究の視点からは、もっと踏み込んだ分析を求めたいとする意見もあったが、本書の対象としている研究領域は、先行研究が乏しく、本書の貢献は貴重であることは明らかであり、証券経済学会賞（図書部門）に相応しいと判断される。

阿萬氏の著作は企業情報に対して株価がどのように反応するかという問題に対して、情報発信源である企業の特徴とマスメディアの役割を中心に、多角的な実証研究を実施したものである。分析は、行動ファイナンスの知見に基づき計量的な手法で行われ、効率的市場仮説の知見をふまえながら多様な切り口で検討が加えられている。基礎的な分析に続いて情報発信源である企業の信頼性向上やマスメディアの報道量の増加が情報効率性を改善するかという点が分析され、続いて報道量の増加や集中度の上昇が株価クラッシュの頻度を高めるか、すなわち、過剰反応を引き起こすかという点が検討されている。特に、後半で、金融機関のモニタリングや企業の情報開示姿勢が株価への情報反応に与える影響を議論している点は、オリジナリティが高いと考えられる。残された課題が多いことを指摘する意見や、本書の構成が複雑でやや錯綜しているとする意見があったものの、丁寧な分析とパイオニア的な位置づけを評価して、証券経済学会賞（図書部門）に相応しいと判断される。

以上